

和's YAMATO (わずやまと) 春号 2014



姫路城と桜

『軍師官兵衛』

信義と智略で戦国の英雄を支える

キリスト教伝来の地を訪ねる(下)

お客様紹介 医療法人社団慶友会 キタムラ 様

名水探訪 柿田川湧水群

和's YAMATO (わずやまと) 春号 (第20号) 2014

『和's YAMATO』の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water & Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。
ヤマトが発信するメッセージです。



名水探訪

環境省選定

名水百選

柿田川湧水群

かきたがわゆうすいぐん



◎アクセス

【鉄道・バスでお越しの場合】

■ JR東海道線「三島駅」下車
⇒ バス〔沼商・藤井原行き〕
«-サントムーン経由-»
柿田川湧水公園前下車
徒歩1分

【お車でお越しの場合】

■ 東名自動車道沼津IC
⇒ 国道1号に合流し
三島方面へ(約15分)



【お問い合わせ】 清水町都市計画課 公園みどり係

〒411-8650 静岡県駿東郡清水町堂庭210-1 TEL : 055-981-8224

<http://www.kakitagawa.tv/shimizu-t/>

株式会社 ヤマト

群馬県前橋市古市町118 〒371-0844

TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北

営業所／軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、神奈川県央、東松山、新潟、長野、波川、川口、多摩、滋賀

附属施設／大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター

ヤマトホームページ www.yamato-se.co.jp/

株式会社ヤマトPR誌/和's YAMATO 2014 春号/2014年3月発行

発行: 株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118

TEL.027-290-1891 FAX.027-290-1896

URL: www.yamato-se.co.jp/

表紙の写真: 姫路城と桜

ソメイヨシノ、シダレザクラなど、約1,000本の桜が姫路城の天守閣や白壁に映えて美しい景色を楽しめます。姫路城の桜は「日本の桜百選」に選ばれています。



期 間	天正6年(1578年) 2月 ～天正8年(1580年) 1月
場 所	播磨国三木城 (現:兵庫県三木市上の丸町)
参加勢力	織田軍 1万人 羽柴秀吉、織田信忠、羽柴秀長、竹中半兵衛、荒木村重ほか 毛利軍 7500人 別所長治、吉川元春、小早川隆景、別所吉親ほか
結 果	籠城戦は2年間と長期に及んだ。 織田軍の攻勢で落城。



三木城址 別所長治像(兵庫県三木市)
兵糧攻めの「三木の干殺し」と呼ばれる戦法で追い込まれ、城兵達の命を助けることと引き換えに妻子兄弟と自害した。

荒木村重
信長への不信任感から謀反を起こし家人は処刑されるが本人は毛利氏に亡命、後に秀吉に許され茶人として生涯を送る。

だった。三木城の攻略を開始した秀吉だったが、ここでもたしても不測の事態が発生する。赤松氏を撃退して尼子勝久が入っていた上月城を毛利軍の五万の大軍が包囲した。上月城を守るのは毛利氏に滅ぼされた尼子氏の一族である尼子勝久とその家臣の山中鹿介ら七百名であった。秀吉は毛利氏に取り囲まれた味方を救うため、三木城攻めを中断し官兵衛や摂津有岡城の荒木村重らとともに一万の兵を率いて上月城に向かった。しかし、毛利軍率いる五万の大軍の前になすすべもなく、この状況を打開すべく、信長は援軍として滝川一益や明智光秀を送り込んだ。ところが一益や光秀は秀吉の指揮下に入ることに難色を示し、事態は打開しなかった。信長は、秀吉に上月城は放棄して三木城を早く落とすように指示した。秀吉は勝久や鹿介に城から脱出するように促したが、二人はそれを断った。秀吉軍が撤退すると上月城は孤立無援となり、天正六年(一五七八)七月、尼子主従は毛利軍に降伏した。

毛利氏と山中鹿介の確執は根深いものがあつた。鹿介は尼子氏の重臣で、尼子氏が毛利氏に滅ぼされてから後、尼子氏再興のため奮闘し、信長と手を結んで勢力を拡大しようとしており、毛利氏は手を焼いていた。毛利氏にとっては、鹿介を何としても討たなくてはならなかった。

上月城を見捨て、三木城攻めに専念していた秀吉軍だったが、またしても味方の離反が出てしまう。荒木村重が信長から毛利に寝返ったのだ。村重は秀吉の兵糧攻めを封じるため、海上から三木城への補給路を作った。これで兵糧攻めの効果が現れなくなってしまう。

荒木村重の謀反により、それに呼応して官兵衛の主君である小寺政識が官兵衛に相談せずに、毛利方に寝返るといふ策を講じ始めた。困り果てた官兵衛は、政識を説得したところ、政識は「荒木村重が離反を思いとどまるのなら、自分も織田方のままでいる」と答えたという。それを聞いた官兵衛は、有岡城に単身乗り込んで村重と直談判しようとするが、これは政識の謀略だった。政識は毛利につくことを決めており、織田と手を組む官兵衛が邪魔になったので、村重に官兵衛を始末してもらおうと考えていた。官兵衛は主君に裏切られ、有岡城に幽閉されてしまった。

信義と智略で戦国の英雄を支える

軍師 官兵衛

黒田如水像 (原画は福岡市博物館蔵、姫路城展示パネル)



官兵衛の調略が効を奏し、東播磨の諸将はほぼ織田方となる。

官兵衛は、織田信長こそ天下を統一できる人物と予見していた。天正五年(一五七七)信長は、播磨の国を中国攻めの拠点とするため、播磨の国を平定する準備をしており、秀吉の片腕として官兵衛を重用しようと考えていた。秀吉は自ら播磨の有力豪族を訪ね、官兵衛の助力を得て次々と調略していった。

別所長治が謀反を起こしたことを知った信長は驚きとともに激怒、秀吉に別所氏の討伐を命じる。天正六年(一五七八)四月、秀吉は三木城を落とすため兵糧攻めを開始する。兵糧攻めを進言したのは竹中半兵衛で、三木城への兵糧を絶つて弱体化させたのち、周囲を固める支城を攻め落としていく作戦

官兵衛の活躍で
播磨の豪族は
順調に信長勢に

NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」

豊臣秀吉の天下統一を支えた軍師として、今年の大河ドラマの主人公となった黒田官兵衛。戦国時代一の軍師と呼ばれた男は、どのような方法で秀吉を天下人へと導いたのだろうか。今回は織田信長の天下統一事業に加わった秀吉と官兵衛の奮戦や、調略、兵糧攻めといった「戦わずして勝つ」戦略を用いた官兵衛の戦法を取り上げた。

主君の裏切りに合い、
命を落とし
かねない事態に

ある宇喜多直家と手を結んで降服しなかった赤松政範の上月城を三万の兵で攻撃し、落城させた。上月城には織田家の武将・尼子勝久が入った。秀吉の播磨平定は順調に見えた。

しかし、信長についたはずの武将が次々と毛利に寝返り、天正六年(一五七八)には信頼を寄せていた三木城の別所長治が信長から離反、城に立て籠もってしまふ。東播磨で最大勢力の別所氏が離反したことを受け、周辺の有力領主も信長に反旗を翻すのだった。

天正6年10月頃の勢力図



荒木村重の謀反で、秀吉は窮地に立った。有岡城のある摂津は、信長がいる近江と秀吉が陣をしいている播磨との間に位置するため、双方の連絡が途絶えてしまい、信長の命令が滞ってしまうからだ。信長は、有岡城や敵対する石山本願寺に食料や弾薬が届かないように兵糧攻めを仕掛けるが、瀬戸内海の海路を毛利軍が握っているため、思うような効果が出ない。そこで、戦況を有利にするために、信長は軍船の改良に着手した。軍船の改良により、織田軍は毛利水軍を撃破、天正六年（一五七八）十一月に大阪湾を封鎖する。これによって敵への物資補給を絶つことがで

有岡城の落城

の軍師となり、秀吉に仕えその能力を発揮していた。半兵衛は病を患い、先が無いことを悟っており、官兵衛を自分の後継者に見立てていたのかもしれない。先輩格の軍師として活躍した半兵衛の思いを受け、軍師の才能をさらに磨いていったともいえるよう。

天正七年（一五七九）十月に有岡城が落城すると、備前の岡山城主・宇喜多直家が毛利氏と手を切り、信長に寝返った。宇喜多直家は権謀術数にたけており、毛利氏の形勢は不利とみて織田家につくことにしたのである。天正八年（一五八〇）一月、三木城の別所長治は切腹し落城、「三木の干殺し」と称される兵糧攻めが終結した。これにより、秀吉は播磨全土の平定を完了し、次の目標は山名豊国が領する鳥取城や因幡の国となり、その攻略に着手する。

天正八年（一五八〇）五月、秀吉は鳥取城を包囲し、豊国は降服するが、山名氏の家臣団は城に残り、籠城を始めた。家臣たちは山陰方面の毛利軍総大将である吉川元春（毛利元就の二男）に城将の派遣を要請、元春は一門の吉川経家（きよかつ）と約四百人の兵を送り込み、鳥取城には約二千名が立て籠った。

播磨平定と
因幡への転戦

き、天正七年（一五七九）十月に有岡城は落城、官兵衛は救出された。

官兵衛は竹中半兵衛に大恩を感じ、礼節を尽くす

軍師 官兵衛

竹中半兵衛（重治）



竹中半兵衛像（岐阜県不破郡垂井町）



竹中半兵衛は戦国時代を代表する軍師で、秀吉の参謀として活躍、黒田官兵衛とともに「二兵衛」と称された。主君は美濃の斉藤龍興、浅井長政、織田信長と代わり、信長は半兵衛を自分の家臣に登用したいと考え、秀吉に勧誘を命じ、秀吉に三顧の礼で誘われたため織田軍に参画、中国地方侵攻で参謀として活躍する。官兵衛が関わる逸話としては、次のものがある。官兵衛が秀吉から加増を約束する書状を受けたにも関わらず実行されないと不満を漏らし、その書状を半兵衛に見せると、半兵衛は目の前でその書状を燃やしてしまった。驚く官兵衛に対して「こんな文書があるから不満を感じるのだ。そのようなものにとらわれていては貴殿のためにならない」と諫めたという。官兵衛は有岡城に捕われていた際、官兵衛の謀反とされ織田軍の人質となっていた嫡男の長政が処刑されそうになった時、それを防いだ半兵衛に対して、官兵衛は大いに感謝したという。官兵衛は竹中家の家紋や兜を譲り受け、跡継ぎにも受け継がせ礼を尽くしたとされる。半兵衛は三木城攻防戦の最中に病死、享年36歳だった。墓所は本営の置かれた兵庫県三木市の他、銅像がある岐阜県不破郡垂井町などにもある。



有岡城本丸の石垣（兵庫県伊丹市）

荒木村重は天正2年（1574）に伊丹氏を破って入城したが、4年後に信長に対し謀反を起こす。有岡城は城下町全体を土塁で囲み北・西・南に砦を配置した総構の城だった。



竹中半兵衛の墓（兵庫県三木市）

官兵衛は捕らわれ、
劣悪な土牢の中で
一年以上も過ごす

官兵衛は、立つこともできない狭く湿った牢獄に一年以上もつながられてしまう。官兵衛の嫡男・長政は織田家の人質となっており、信長は官兵衛が荒木の軍師になったと断定し、長政の処刑を命じた。処刑を命じられたのは竹中半兵衛で、半兵衛は官兵衛と小寺政識は違う考えを持っており、官兵衛が荒木と手を組むことはありえないと信長を諫めた。また、官兵衛を敵にまわすと毛利攻めに支障が出ると、長政の処刑を思いとどまるように進言するが、信長の命令は覆らなかった。

竹中半兵衛は、長政を処刑すべきところ、自分の城に連れていき、かくまってしまう。信長の命に背き、処刑したと嘘の報告をしてまで、官兵衛の子孫を守ったのだった。二人には、それだけ強い信頼関係があり、半兵衛にとって官兵衛は得難い人材と映っていたに違いない。半兵衛は信長に請われて織田家



高松城の遺構 舟橋
船を並べて橋の代わりに用いた



備中高松城攻め布陣図



清水宗治首塚



高松城本丸想定図
(岡山市教育委員会作図)



期 間	天正10年(1582年)4月～6月
場 所	備中国高松城 (現:岡山県岡山市北区高松)
参加勢力	織田軍 3万人 羽柴秀吉、黒田官兵衛、蜂須賀正勝、加藤清正ほか 毛利軍 4万5000人 毛利輝元、清水宗治、吉川元春、小早川隆景ほか
結 果	官兵衛の奇策で 織田軍が和睦交渉を有利にすすめる

天正十年(一五八二)三月、官兵衛と秀吉は、毛利氏の勢力下にある備中(岡山県西部へと侵攻する。総勢二万の大軍は、四月に備前の岡山城で出陣の準備をし、高松城を目指した。高松城は清水宗治が守っている。平城ではあるが、周囲を囲んだ沼が堀の役割をし、城への道は一本しかないために攻めにくい構造となっている。この場所は毛利軍の本陣が近いので、毛利の大軍が迫っており、兵糧攻めで時間をかけている状況ではない。

そこで官兵衛は、城ごと水没させるという奇策を進言した。高さ七メートル、総延長三キロメートルにも及ぶ堤防を、兵員の総力をあげてわずか十二日で完成させる離れ業であった。高松城がにわかづくりの湖の中に孤立し、城ごと水没するのは時間の問題となった。毛利軍の本隊四万が到着したものの打つ手がなく、籠城している味方を見殺しにできず、毛利側は和睦交渉に応じざるを得なくなった。

備中高松城水攻め

冴えわたる知略、大胆な奇策で難攻不落の城を落とす

軍師 官兵衛



鳥取城二の丸に通じる
西坂下門



官兵衛は、籠城戦になることを見越していたのか、決着を早くつけるための対策を打っていた。対策の一つは、周辺の米を相場の高値で買占め、食糧が場内に蓄えられないようにしたのだ。その効果はすぐに現れ、籠城三ヶ月で城内は飢餓状態となり、天正八年(一五八〇)十月には経家の切腹で戦いは終結した。

兵糧攻めで
鳥取城を早期に
陥落させる



吉川経家

秀吉は経家の奮戦を称え、経家を助命するとしたが経家はそれを拒否し責任をとって自害した。



期 間	天正9年(1581年)6月～10月
場 所	因幡国鳥取城 (現:鳥取県鳥取市東町)
参加勢力	織田軍 2万人 羽柴秀吉、黒田官兵衛、羽柴秀長、蜂須賀正勝ほか 毛利軍 1400人 吉川経家、吉川元春、中村春統ほか
結 果	城兵たちは死人の肉を口にするほど飢餓に苦しんだ 官兵衛の采配で短期間で集結



鳥取城天守跡



鳥取城の石垣

天文15年 小寺(黒田)職隆の嫡男として姫路城で生まれる。
(1546) 幼名は萬吉。
永禄 4年 御着城で小寺政職の近習として仕える。
(1561)
永禄 5年 この頃元服し、官兵衛孝高と名乗る。
(1562)
永禄10年 志方城主・櫛橋伊定の娘を娶る。
(1567) 職隆に代わって姫路城代となる。
永禄11年 嫡男長政(幼名・松寿丸)が誕生。
(1568)
永禄12年 龍野城主赤松政秀の来襲を青山の合戦で撃退する。
(1569)
天正 3年 主君政職に織田信長への帰属を説き、岐阜で
(1575) 信長に拝謁。名刀「庄切」を与えられる。
天正 4年 英賀ノ浦(姫路市飾磨区)に上陸した毛利の大軍を
(1576) 迎え撃って大勝。信長より感謝状を贈られる。
天正 5年 播磨入りした羽柴秀吉のために姫路城を提供。
(1577)
天正 6年 三木の別所氏ら播磨の諸将が毛利に寝返る。
(1578) 荒木村重が信長に謀反。村重説得のために有岡城
(伊丹市)に入るが、捕えられ土牢に幽閉される。
有岡城が落城。自らの家臣に救出される。
天正 7年
(1579)
天正 8年 城主別所長治が切腹し、三木城落城。小寺政職が
(1580) 御着城から逃亡したため姓を小寺から黒田に戻す。
天正10年 本能寺の変。
(1582)
天正11年 キリスト教に入信する。(洗礼名・シメオン)
(1583)
天正15年 九州征討の論功行賞で豊前6郡12万石の国守となる。
(1587)
天正17年 家督を長政に譲り「如水」と名乗る。
(1589)
天正18年 秀吉の小田原城攻めに参加。小田原城に乗り込み、
(1590) 北条氏政、氏直父子に講和を勧め、無血開城に導く。
文禄元年 朝鮮外征軍の軍監となって出兵する。
(1592)
文禄 2年 朝鮮から許可なく帰国。秀吉の怒りを買い、
(1593) 頭を丸めて謹慎する。
慶長 5年 関ヶ原の役。中津城にあって兵を募り、
(1600) 石垣原の戦いなどで勝利。
九州の大半を制圧するが、家康の命に従い停戦する。
慶長 9年 京の伏見屋敷で病没。享年59。
(1604)



勝龍寺城

〔写真上〕
本丸内に建てられた城郭風の建物は休憩所と資料館になっている。
〔写真右〕
本丸の北側は堀と土塁が再現されている。



期 間	天正10年(1582年)6月13日～14日 ～大正8年(1580年)1月
場 所	山城国山崎 (現:京都府乙訓郡大山崎町一帯)
参加勢力	秀吉軍 2万人～4万人 羽柴秀吉、黒田官兵衛、織田信孝、丹波長秀ほか 明智軍 1万人 明智光秀、斎藤利三、津田重久、阿閉征ほか
結 果	戦闘の準備が整わない明智軍は、 羽柴軍の攻撃に総崩れ。 光秀は敗走中あえなく落命する。



山崎合戦地の碑

姫路城に入ると兵を休ませ、米と銀を惜しみなく分け与え、粥を振舞った。そして11日には尼崎、12日には摂津の富田まで進み、山崎と天王山を支配した。行軍の時に、官兵衛は講和してきた毛利方の軍旗を掲げ、光秀の密偵に毛利も秀吉軍を味方していると印象付け、相手の士気を落とす作戦を実行した。この作戦は態度を決めかねている武将にも秀吉に与する決断を促す効果もあったという。

明智軍は秀吉軍を待ち受けて攻撃を仕掛け、山崎の合戦が開戦する。天皇山麓に布陣していた官兵衛の部隊をはじめ秀吉軍は一斉に反撃を開始、秀吉軍四万は明智軍一万余を次々と撃破し、明智軍は総崩れとなり、勝龍寺城に退却する。官兵衛は城を包囲しながら、光秀の領国である丹波に向かう北口をわざと手薄にした。勝ち目が無いことを知った将兵が出口から次々と抜け出し、光秀も夜陰にまぎれ城から脱出するが、農民の落ち武者狩りに合いあえなく落命した。

こうして本能寺の変からわずか十二日間で光秀の「三日天下」は収束し、秀吉と官兵衛は天下統一へまい進するのである。

秀吉の中国侵攻ルート



軍師 官兵衛



天正8年(1580)三木城攻め→祝山城攻め
↓長水城攻め→鳥取城攻め
天正9年(1581)鳥取城攻め→淡路出陣
天正10年(1582)備中高松城攻め

秀吉の大坂返し経路図



上に記載した日付は、基本的に官兵衛の隊が行軍したもの。姫路と尼崎の間を2日間で走破したというのは、長距離ランナーに匹敵する体力を要する。そのため秀吉軍はかなり軽武装だったと思われる。

毛利との和睦交渉は互いの主張が食い違い、こう着状態となっていた時秀吉のもとに「本能寺の変」の一報が入った。主君・信長が明智光秀に討たれたことに衝撃を受けながら、さらに恐ろしい事態が急変

本能寺の変で事態が急変

い事態が頭をよぎる。毛利との交渉が決裂した場合、織田の本隊である十万の兵が援軍として来ないこととなり、それを知った毛利は和睦どころか反転に出る可能性がある。狼狽する秀吉に、官兵衛は「武運がめぐってきました」と囁いたという。この窮地を脱しさえすれば、秀吉が天下人になる夢が現実になるかもしれない、という希望を灯したともいえる。

毛利側を欺き、和睦を成した上で大坂に急行し、信長の仇を討つことができれば、秀吉の存在感、織田家臣団の中でより大きくなる。信長亡きあとの実力者として、天下統一事業を継承することもありえるだろう。官兵衛は、そこまで先を読んでいたのかもしれない。軍師・黒田官兵衛の類いまれな采配は、いよいよ冴えわたっていく。

姫路～尼崎間 80kmを2日で走破

天正十年(一五八二)六月六日夕刻、秀吉軍は備中高松城を出発、驚異的なスピードで行軍を続け、7日の夜に姫路に到着。秀吉は官兵衛の提案により

キリスト教伝来の地を訪ねる(下)

島原・大村・外海

島原

キリシタンの受難と島原の乱

天草四郎を総大将とした、領民の二揆が勃発

黒田官兵衛はキリスト教に関心が高かった。「戦わずして勝つ」に代表される、力でねじ伏せるのではなく相手との交渉を優先させるという官兵衛の思想と、キリスト教の教義に共通項を見出しやすかったのかもしれない。また、黒田家は目録の販売で財を成した経緯があるため、西洋文化や西洋との交易にも関心があつたとも考えられる。

官兵衛は天正十二年(一五八三)に入信、天正十五年(一五八七)には息子の長政や、弟の直之がキリスト教の洗礼を受けている。官兵衛は、九州でキリシタン王国を築こうとした大村純忠や有馬晴信といった九州のキリシタン大名の存在を意識していたとも想像できる。

前号に続き、キリスト教の浸透と弾圧によって特殊な文化が根付いた長崎の島原、大村、外海の歴史を紹介する。

島原半島を治めていたキリシタン大名の有馬晴信は、キリスト教を庇護していたが、晴信が不祥事により藩主の座を追われた後、島原半島でのキリシタンたちは、しだいに追いつめられていった。徳川幕府からはキリスト教を禁教とする政策が次々と打ち出され、晴信が築いたキリスト教に基づく社会は、徐々に崩壊の一途をたどった。

晴信の後を継いだ息子の直純は、父とは逆にキリシタンの弾圧を始める。しかし、領民からの反発が激しく、キリシタンたちの数も思うようには減らず、日向(宮崎県)に国替えとなった。有馬氏の後で領主となった松倉氏は、多額の徴税と領民の労力で島原城を築き、棄教しないキリシタンを雲仙地獄に投げ込む拷問で、棄教を迫ったという。

領民たちの庄政への不満はしだいに膨らみ、飢饉や凶作などが続いたことによる



天草四郎像

徳川幕府は、島原半島の揆に大軍を投じ制圧した。その理由は、揆軍の背後に、卓越した西洋の軍事力や、幕府政権を脅かかねない勢力の存在等を演出したせいかもしれない。島原の乱を契機に、幕府は海外との交易を制限し、鎖国体制を整えた。

疲弊も重なり、遂には二揆を起こす計画が練られていく。代官がキリストの聖画を破いたことに抗議し、寛永十四年(一六三七)、領民たちは代官を攻撃、また十代半ばの天草四郎を総大将に、島原半島の各村で次々と蜂起した。二揆軍はまず島原城を攻め、天草でも民衆が領主の城を攻撃、一揆はさらに拡大していった。島原での二揆軍に参加した民衆の数は、実に約三万七千人にものぼったが、島原城を落とすことはできず、廃城となっていた原城に立てこもった。

島原の乱を完全に制圧した幕府は、仏寺に必ず所属しなければならぬ寺請制度や宗門改の制度化を行った。また、キリシタン探索をさらに強化し、絵踏み等の強制によりキリシタンに精神的苦痛を与え、厳しく改宗を迫った。キリシタンたちは幕府の弾圧から逃れるため、表向きは棄教したふりをして、ひそかにキリスト信仰を保つ「隠れキリシタン」として生活するようになった。そうした「隠れキリシタン」たちは、明治の禁教高札の撤廃後にも、カトリックキリシタンに復活しないことが多かった。よって、「隠れキリシタン」とは、独自のキリスト信仰を持っている人を指すとも言われている。

島原

天正遣欧使節を育んだキリシタン王国

イエズス会の布教活動を支援した、有馬氏の繁栄と衰退

島原半島はもとより、肥前一帯を手中に収めていた有馬氏の十代目当主が有馬晴純(はるすみ)であり、一族の勢力拡大に大いに貢献した人物とされる。晴純は、近隣の大村氏に息子の純忠を養子に出し影響力を保つなど、領土拡大を狙う辣腕の戦国大名であつた。晴純が隠居すると、家督を継いだ長男の義貞は、南蛮貿易を誘致するため、イエズス会の布教活動を支援した。

永禄十年(一五六七)、念願の南蛮船が始めて来航するものの、以後、貿易拠点は長崎に移り、ポルトガル船の島原への来航は減少した。しかし、元龜二年(一五七〇)、兄・義貞の早世により家督を継いだ晴信の時代に、有馬氏は「キリシタン王国」を築くことになる。

晴信は天正八年(一五八〇)に洗礼を受け熱心なキリシタンとなり、天正十年(一五八二)には叔父の大村純忠、大友宗麟らとともに天正遣欧使節を派遣した。

天正十二年(一五八四)、有馬氏は、たびたび領土を脅かしていた佐賀の龍造寺氏との合戦に勝利する。戦勝の背景には、イエズス会の経済的・軍事的支援があつたとされ、晴信はイエズス会との関わりをさら

に深めていく。南蛮貿易の活発化により、有馬氏の経済力は増し、幕府への貢献も大くなつていった。晴信の長男・直純は、徳川家康の養女を妻とする栄誉を得た。

晴信らが派遣した天正遣欧使節の少年四人は、有馬のセミニリヨ(修道者育成の初等教育機関)で学んでいる。セミニリヨは、日本で最初の本格的な西洋式学校で、西洋音楽やラテン語などを習得できた。

約二年の長い船旅を経てヨーロッパに到着した四人の少年たちは、ポルトガル、スペイン、バチカンなどを、さらに約二年かけて歴訪、各地で熱烈な歓迎を受けた。しかし、少年使節が日本に戻った約八半年後の天正十八年(一五九〇)には、すでに秀吉により伴天連(パテレン)追放令が出され、

キリスト教の布教には陰りが見えていた。

キリスト教の布教で民心をとらえ、南蛮貿易の利益で安定した政治を行っていた晴信だったが、慶長十四年(一六〇九)、晴信は詐欺にかかってしまう。その顛末は以下に記すが、晴信は策略にかかったような結末だった。

当時、晴信はポルトガルとの間に貿易にまつわる問題を抱えていたが、努力してその問題を解決にこぎつけた。そこに、江戸幕府の老中である本多正純の家臣と名乗る岡本大八という男が現れ、晴信にとって耳寄りな話を持ちかける。それは、徳川家康がポルトガルとの問題を解決したことを評価し、有馬氏の旧領を戻すことを考えているので、岡本が間に入つてそのことを実現させるといふものだった。晴信はこの話に乗り、岡本に多額の賄賂を渡して便宜を図ってもらおうとした。しかし、この話は偽りで、晴信から金を詐取するための

策略だったのである。この一件が家康の耳に入り、家康は唆された上賄賂を渡したことを厳しくとがめ、晴信は追放された上、死罪となってしまう。これが慶長十八年(一六三三)に発生した「岡本大八事件」で、権勢をふるっていたキリシタン大名が失墜する大きな事件となった。

晴信は熱心なキリシタンであつたため、キリスト教が禁教となり処罰の対象とされてからも、多数のキリシタンをかくまっていた。それにもかかわらず、有馬領内で厳しくキリシタンの探索が行われなかつたのは、長男の直純が徳川家から妻を娶ったことと、南蛮貿易の莫大な利益で幕府の財政に寄与したことが挙げられる。

しかし、晴信が追放の上死罪となり、有馬氏は所領替えとされた後、当然のごとく情勢は急変。旧有馬領内ではキリシタンへの激しい弾圧が始まり、それまで集結していたキリシタンの反抗が高まり、島原の乱を誘発したと言えよう。



天正遣欧少年使節頭影の像(長崎県大村市) 長崎空港をつなぐ橋のたもとに建つ。左から正使の伊東玄三郎、中村三三、副使のマルチノ、中浦三郎の像。



島原城(森岳城) 天守閣は昭和39年(1964)に復元された。城の立派な石垣は当時のまま。



島原城を案内する観光ガイド キリシタン風の衣装で観光客を案内する。

大村

哀しみ誘うキリシタン史跡

日本で最初のキリシタン大名大村純忠の施政により、大村領はキリスト教が深く浸透する地域だったが、徳川幕府のキリスト教禁止令(二六四年)で大村藩ではキリシタンの摘発が行われ、キリシタンの姿は消えたかに思われていた。しかし、禁教令から四十年以上経った明暦三年(二六五七)、よもや残っているとは思わなかった隠れキリシタン六百名以上が摘発される大事件が起こった。四百名以上のキリシタンが打ち首となり、その首は二十日以上も見せしめのためさらされたという。この事件は大村藩郡地方で起こったところから「郡(ごおり)崩れ」「崩れ」とは検挙事件のことと称され、キリシタン弾圧事件として歴史に刻まれている。大村市には、悲惨なキリシタン弾圧の歴史を物語る史跡が数多く残っている。



放虎原(はつこばる)殉教地の碑
大村の処刑場跡で、支倉常長ら慶長遣欧使節をローマに案内したシロコ神父ら百三十人が殉教した。



獄門所跡に設置されている母子の像
当時の殉教者には幼い子供や母親もいた。



首塚跡
キリシタンを処刑した際、首を埋めた場所。首と胴を別々にして埋めたのは、キリストの妖術によつて生き返るのを恐れたためと言われている。



胴塚跡
埋不尽な処刑にも殉教の喜びを示す姿が涙を誘う

外海

聖母マリア崇拜と神父不在の禁教時代

幕末まで継承された隠れキリシタン信仰

西彼杵(にしそぎ)半島の西側に位置する外海(そとめ)地区は、古くから急斜面の山や未整備の街道が続き、役人の目が行き届かない場所であった。また、江戸時代は佐賀領と大村領とが混在していたため、入念なキリシタン探索がしづらく、潜伏キリシタンが身を隠しやすい土地となっていた。

当時のキリシタンにとって信仰の拠り所は聖母マリアであり、いつの日にか神父が現れるという予言を固く信じていた。こうした独自の信仰形態は少しずつ変容しながらも、親から子へと継承されていた。



フランス人宣教師ド・ロ神父の肖像画
外海地区で明治十一年から三十三年間にわたり、産業や医療建築などを通じて人々に奉仕した。

長崎とキリシタンにまつわる主な出来事

和暦	西暦		和暦	西暦	
天文 17	(1549)	ザビエル、鹿児島上陸(キリスト教伝来)	慶長 19	(1614)	全国に禁止令
18	(1550)	ザビエル平戸で布教開始	寛永 4	(1627)	雲仙地獄で拷問はじまる
永禄 6	(1563)	大村純忠、受洗	5	(1628)	このころ長崎と周辺で絵踏みがはじまる
12	(1569)	織田信長、フロイスに京都布教を許す 長崎初の教会が建つ(サントス教会)	13	(1636)	出島完成、ポルトガル人収容
天正 8	(1580)	有馬のセナリヨ開設	14	(1637)	島原の乱勃発
10	(1582)	天正遣欧使節、長崎を出発 本能寺の変、織田信長没する	15	(1638)	島原の乱鎮圧
11	(1583)	黒田官兵衛 受洗	18	(1641)	平戸オランダ商館を長崎出島に移転
12	(1584)	有馬晴信、浦上村をイエズス会に寄進	正保 元	(1644)	国内最後の神父殉教(小西マンショ)
13	(1587)	大村純忠没する 豊臣秀吉、博多で伴天連追放令を発布	明暦 3	(1657)	大村郡崩れ(キリシタンの摘発)はじまる
16	(1588)	秀吉、長崎、茂木、浦上を直轄地とする	寛政 5	(1858)	長崎奉行、絵踏みを禁止 日本、欧米と修好通商条約締結
18	(1590)	天正遣欧使節、帰国。活版印刷機を持ち帰る	文久 2	(1862)	東山手に日本で最初のプロテスタント教会建つ ジラール、開国後日本で最初の教会を建てる ローマで二十六殉教者列聖式
慶長 2	(1597)	二十六聖人、西坂の丘で殉教	慶応 元	(1865)	大浦天主堂献堂 信徒発見
3	(1598)	豊臣秀吉没する	明治 6	(1873)	キリシタン禁制の高札撤去
5	(1600)	関ヶ原の戦い	8	(1875)	同志社英学校が開校
8	(1603)	徳川家康、江戸幕府をひらく	15	(1882)	開国後、最初の日本人司祭誕生
10	(1605)	大村領長崎村、天領となる	22	(1889)	大日本帝国憲法発布
14	(1609)	平戸オランダ商館設立	昭和 8	(1933)	大浦天主堂、国宝指定
15	(1610)	有馬晴信、長崎港でポルトガル船を撃沈	20	(1945)	長崎に原爆投下、浦上教会など崩壊 終戦
17	(1612)	岡本大八事件で、有馬晴信斬首	21	(1946)	日本国憲法公布
18	(1613)	平戸イギリス商館開設 伊達政宗、慶長遣欧使節派遣	平成 19	(2007)	長崎の教会群などが世界遺産候補になる
19	(1614)	長崎の諸教会がほとんど破壊される			



大村純忠史跡公園の門
大村純忠終焉の居館跡を中心とした史跡公園



ド・ロ神父が設計した出津(しつ)教会(国の重要文化財)



遠藤周作文学館
外海地区は、遠藤文学の原点ともいわれる小説「沈黙」の舞台で、遠藤文学に関わる資料を展示する文学館がある。

雲仙地獄
雲仙温泉にあり、高温の温泉や蒸気が吹き上がっている。ここでキリシタンの拷問が行われた。

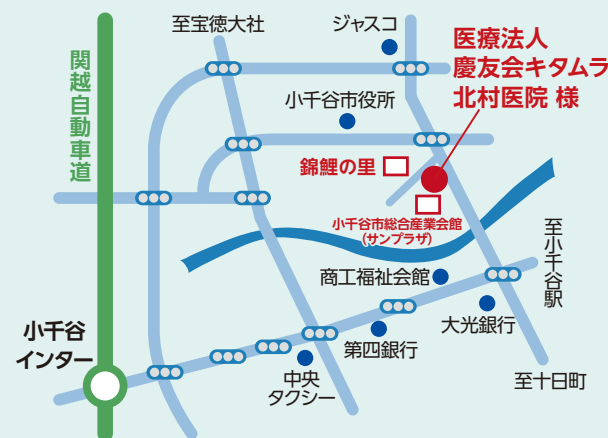
医療法人慶友会キタムラ 北村医院 様



北村医院様の壁面には、小千谷のひいな祭りについての説明板が掲げられていました。



医療法人慶友会キタムラ 北村医院様。
小千谷市総合産業会館(サンブラザ)の隣にあります。



小千谷市の見所を紹介

小千谷の祭りでは、越後三大花火大会の一つで、四尺玉が打ち上げられる「片貝まつり」が全国的に有名です。伝統行事では、江戸時代から行われている牛の角突き(国の重要無形民族文化材)があります。また、3月には浮世絵(絵紙)を部屋一面に飾る「小千谷の雛祭り」が行われ、現在でもこの行事を行っている家庭も少なくないそうです。北村医院様の壁には、小千谷の雛まつりの紹介文が掲げられていました。



片貝祭り三尺玉

毎年9月9日・10日に開催される片貝まつりは、浅原神社の秋季例大祭。メインはギネスにも認定された世界一大きい正四尺玉です。



小千谷のひいな祭りのポスター

四尺玉の複製



直径約4尺(約120cm)、重量420kg。
サンブラザに展示されています。

小千谷市のイメージキャラクター「よし太くん」



小千谷の角突きがモチーフになっており、闘牛の時のかけ声「ヨシター」が名前の由来だそうです。



牛の角突き

牛同士がぶつかり合う牛の角突きは迫力満点。他の闘牛とは異なり、越後の角突きは原則として引き分けで終わるそうです。



小千谷が原産の錦鯉(錦鯉の里)

北村医院様の近くにある錦鯉の里では、優秀鯉15品種約200尾が鑑賞池で泳いでいます。

介護老人保健施設春風堂様では、このたび省エネルギー改修工事を施工、ヤマト大温度差蓄熱空調システムを導入し、省エネと省コストを図っています。

春風堂の事務主任・岩淵貴志様は、「ヤマト大温度差蓄熱空調システムの導入により、電気料金の削減を期待しています。現在は導入して間もないので、今後の推移が楽しみです」と話してくださいました。

介護老人保健施設 春風堂

〒947-0043
新潟県小千谷市山谷
1635-100
TEL.0258-83-1311



春風堂の岩淵事務主任 様



春風堂の外観



中央の建物が蓄熱槽



春風堂の正面玄関

春風堂様では、施設入所者と短期入所療養介護(ショートステイ)、通所リハビリテーション(デイケア)の利用者を合わせると、合計120名の方々が利用されています。

また、春風堂と同じ場所に、在宅複合施設・那由多の家があります。那由多の家には、ショートステイ那由多の家(短期入所生活介護・定員30名)、デイサービスセンター那由多の家(通所介護・定員20名)のサービスがあります。医療法人社団慶友会キタムラ様では、充実した介護プランで利用者の期待に応えています。



春風堂のロビー

介護老人保健施設 春風堂 省エネルギー改修工事が完了

お客様紹介

医療法人社団慶友会キタムラ 様

新潟県小千谷市

概要

建物
鉄筋コンクリート造2階建
延床面積 1階 1,924.35㎡
2階 1,971.32㎡
計 3,895.67㎡

敷地
敷地面積 6,031.45㎡
駐車場 来客用 12台
職員用 50台